

本阿弥光悦(ほんあみこうえつ・1558-1637)は戦乱の時代に生き、さまざまな造形にかかわり、革新的で傑出した品々を生み出しました。それらは後代の日本文化に大きな影響を与えています。しかし光悦の世界は宇宙(マクロコスモス)のごとく深淵で、その全体像をたどることは容易ではありません。

そこでこの展覧会では、光悦自身の手による書や作陶にあらわれた内面世界と、同じ信仰のもとに参集した工匠たちがかわつた蒔絵(まきえ)など同時代の社会状況に応答した造形とを結び付ける糸として、光悦とその一族が篤く信仰した当代の法華(ほっけ)町衆の社会についても注目します。造形の世界の最新研究と信仰のあり様とを照らし合わせることで、総合的に光悦を見通そうとするものです。

「生涯へつらい候事至てきらひの人」で「異風者」(「本阿弥行状記」)といわれた光悦が、篤い信仰のもと確固とした精神に裏打ちされた美意識によって作り上げた諸芸の優品の数々は、現代において私たちの目にどのように映るのか。本展を通じて紹介いたします。

信

光悦の篤い信仰心をうかがい知ることで、できる品々を紹介



[[法華経] 第8卷・巻首]

重要文化財 紫紙金字法華経并開結 平安時代・11世紀 京都・本法寺蔵 ※会期中、部分巻替えがあります。

本阿弥光悦の深淵なる美意識を 優品の数々を通してたどる

刀

刀剣を見極める本阿弥家の審美眼によって選抜された名刀たちの競演



重要美術品 短刀 銘兼氏 金象嵌花形見
志津兼氏 鎌倉-南北朝時代・14世紀



(刀装)
刻鞘変り塗忍ぶ草
蒔絵合口腰刀
江戸時代・17世紀

漆

独特のフォルムと素材の質感、文学世界と書が織りなすイメージの連環



国宝
舟橋蒔絵硯箱
本阿弥光悦作 江戸時代・17世紀 東京国立博物館蔵

[側面]

光悦の指料と伝わる唯一の刀剣、約40年ぶりの公開。

陶

個性的なフォルムをみせる名碗の数々でたどる、光悦の創造の軌跡



重要文化財
黒楽茶碗 銘時雨
本阿弥光悦作 江戸時代・17世紀
愛知・名古屋市博物館蔵

書

光悦の美意識が、高く昇華した書の魅力が余すところなく体験



[部分]

重要文化財 鶴下絵三十六歌仙和歌巻 本阿弥光悦筆/俵屋宗達下絵 江戸時代・17世紀 京都国立博物館蔵

光悦充実期の代表作、全巻一挙公開